

野尻の棚田の灌漑用水

八重地からはるばる 12 キロ以上離れた野尻へと続く一連の用水路に、旭川の水を流し込む手掘りのトンネルがあります。このシステムは 300 年近く前に建設され、現在も使用されています。

このシステムが建設される前は、この経路沿いの水田は溪流や湧水に依存していたため、干ばつの影響を受けやすいものでした。1737 年、野尻の農家の人々 31 人のグループが、安定した給水を確保するための灌漑システムを提案し、それが 1740 年に完成しました。機械化時代の前に建設されたので、人々は岩や土を手工具のみで掘り抜いて、山や谷を貫きました。このトンネルは制水弁を備えていたので、台風や暴風雨が接近する時は水流を止めることができます。この歴史的な民間の技術的快挙のおかげで、野尻は水不足に悩まされたことがありません。

野尻の田畑は、米に加え、食用のハーブや花、阿波晩茶、また柚子、ユコウ、およびスダチなどの柑橘類を生産しています。